



ホームレスという言葉

「ホームレス」という言語は「家がない」状態以外に多くの意味を持っています。そして、その意味はみんなが共有する状態にあります。つまり、「ホームレス」という言語は記号化されているわけです。

この言葉は、「ホームレス」という明確なレイヤーを作り出しています。確かに社会中にはいくつものレイヤーが存在するでしょう。しかし、実際はそれらが複雑に絡み合った状態にあります。

まずは、都合の良い線引き行為を改めていきましょう。ズレを顕在化させること、それが正しく彼らを認識することにつながります。

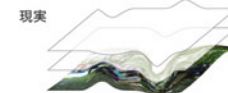


Function

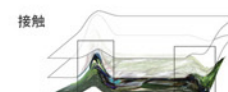
機能のみちびき。



言葉の上では明確なレイヤーが存在する。



レイヤーが存在していることを前提にしても、実際は、それらが複雑に入り組んだ状態にある。



レイヤー同士の接触には、少年犯罪などのネガティブなものやNP活動などのポジティブなものも存在する。

認識のズレ

ズレを顕在化させること。それは、社会の中で実際に行われている活動を、明確に位置づけることではないでしょうか。

したがって、実際に行われている活動に焦点をあてます。機能は「集いの場」、レイヤー同士の接点。彼らの活動に形を与えましょう。



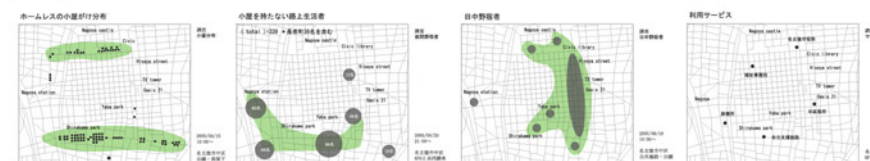
NPV団体「障害労働者の人権を守る会」

Site

敷地の決定方法。

change / 変動する条件

NPV団体によって常に以下の情報が把握されています。



unchangeable / 定まった条件

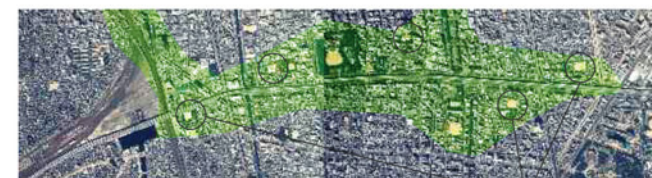
この地区において利用可能な中規模の公園を選出しました。



移り変わる彼らの居場所と利用可能な公園の重ね合わせによってその都度、敷地を決定していきます。



decision / 敷地の決定



case study →

Design Concept

具体的な条件と抽象的な条件。

社会の不安定な部分に触れる際は必然的に抽象的な条件が重要性を帯びてきます。



線引き行為が彼らをホームレス足らしめています。形態は決して彼らを象徴してはいけません。

abstract

集めること 分散させること		当事者たちの活動が目に見えないことは、一般社会にとって恐怖である。オブジェクトによって当事者たちを集め、社会に開かれた場で、すなわち視覚可能な形で活動が行われる必要がある。緩やかにまとめることが重要である。
分離すること		NPOオフィスと主要建築物を明確に分離し、社会情勢に左右されない部分を残しておく必要がある。
柔軟であること		様々な状況に対応するため、一定の場所にとまらぬ仮設建築を考える。一つの場所でも可変的であり、また移動可能な建築が求められる。
消えること		破壊行為に対抗する「オブジェクト」と「場所」の概念。破壊や排除といった概念がいついかに何に対して働くのか？様々な立場から眺めるとメリットとしての「場所」とデメリットとしての「オブジェクト」の関係に分かれる。

concrete

移動		中型（2トン程度）のトラックで輸送する。したがって中型トラックの標準荷台寸法が設計のよりどころになる。幅2000、長さ5000、高さ3000程度を想定する。
敷地		大規模な公園は舗装され、基礎が打てない。中規模の公園は舗装が比較的されていない。小規模な公園は周辺住民の連結が強く建設が難しいと思われる。したがって中規模の公園を巡回していく。グリッド状に都市を展開させているため、公園が長方形になっている。長方形の敷地をそのまま使ったものや、自由な曲線で造園したものなど様々である。したがって、単位となる空間を作り出し、それらを自由に連結させる。ユニットの数は、4つである。象徴性と均質化の間。
連結		
人数		現在行われている炊き出しなどの活動において毎回200~300人が集まることから、この人数を収めることのできる空間が必要とされる。ユニットの面積を決定する。

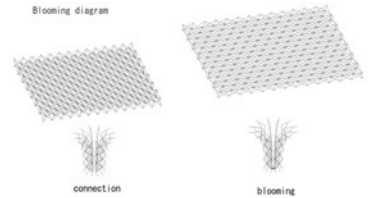
Structure 1

緩やかに覆う構造体。

あるときは公園の一部として、またあるときは当事者たちの集いの場として機能します。



突然現れては姿を隠す。そんな仮設建築を創造しました。



exploded isometric

構造体は打も込まれ、それぞれが縁取りでまとめられる。その上にボックスが設置されている。

ボックス

構造体が固定される。スチールのボックスも、もちろんその縁取り縁取りが収まる。

ワイヤー

突っ張り材を持ち上げる。

上層展開構造

シーサスを三角形に組んだ展開構造。外へ行くほど素材は細くなる。

突っ張り材

下部展開構造

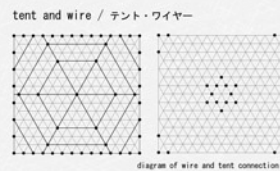
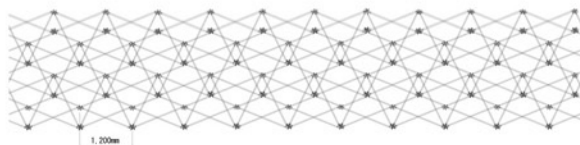
最上層に伸びる構造と展開の引っ張り力のみ負担する構造体によって構成される。

ネット

ワイヤーを一体化して上層展開構造を形成する。

only top structure elevation from sky 1/50

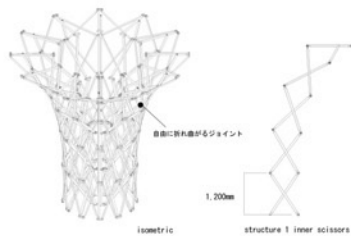
elevation from front 1/50



connection /

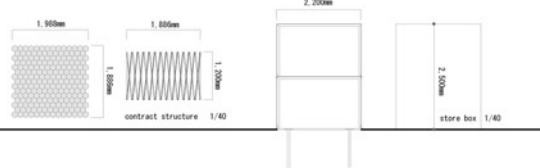
角度60°、ジョイント間の距離1200mmのメッシュを形成し、連続的な6面体ジョイントでこれらをつないでいく。さらに中心へ付くほど、立方体になっていく。

下部展開構造物は1200mm×60°で部材を連続させて連続したメッシュを組む。これを層状に接続する。その外周部に部材を接続して、形状を固定していく。シーリングは、下から設置まで50mm角、上段が4mm角で構成されている。

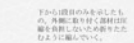
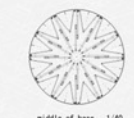


store / 収納

上部展開構造物の納まり。使用しないときは、以下のボックスに2段階で収納する。



base / 基礎



下部は目録のみを収めたもの、内側に折り付く部材は、組み立て時に折りたたむように設計されている。

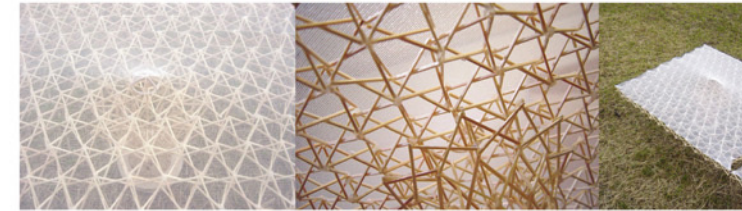
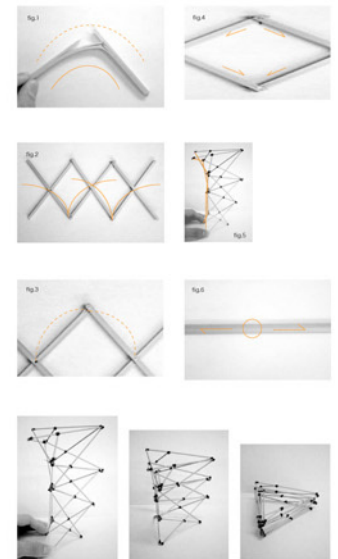
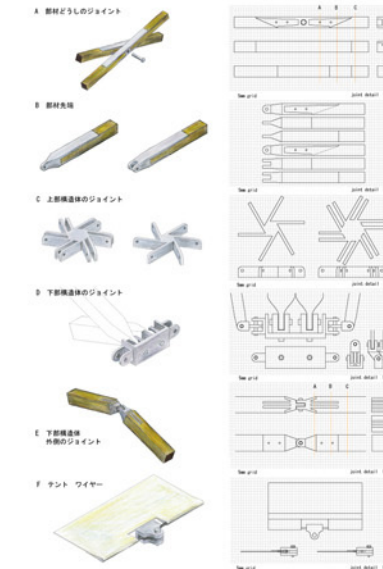
tent and wire / テント・ワイヤー

テントとワイヤーを一体化させ、以下の点で接続する。上部展開構造が中心から60度角が広がるように接続されている。右図は中心が下部構造との接続点。左図は地面と接続されるワイヤーとの接続点。



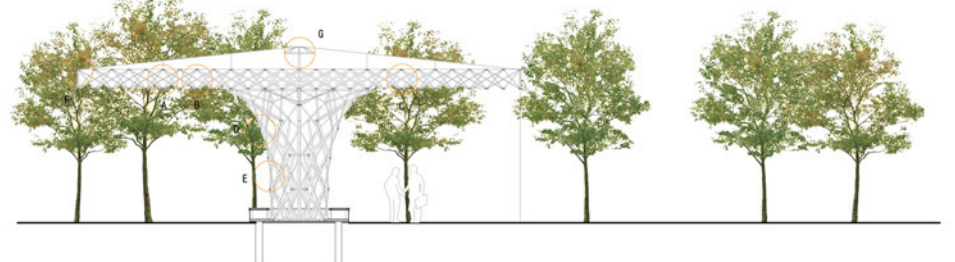
Structure 1 joint systems

茂る木々のその末端。



下部展開構造物のワイヤーの張力を調整するための装置。この装置は、ワイヤーの張力を調整するための装置である。ワイヤーの張力を調整するための装置である。

緑豊かな環境と解け合うように。

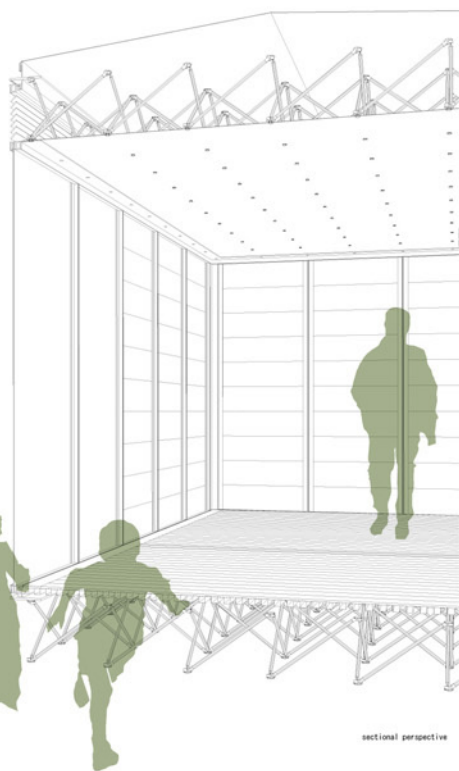
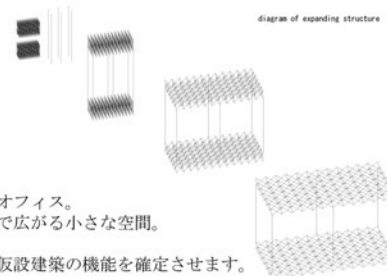


Structure 2

多様な活動の根幹。

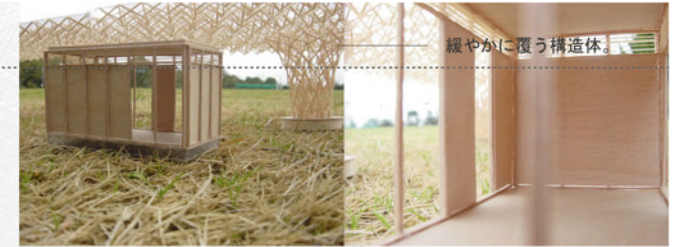
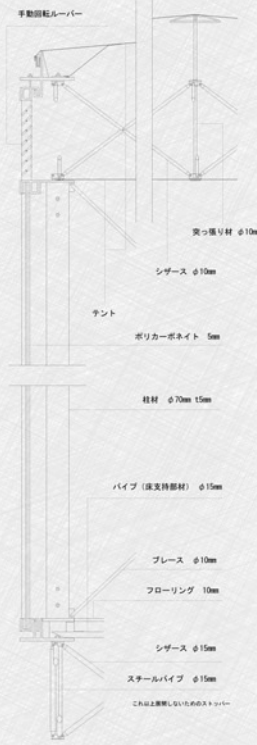


仮設のオフィス。
人の手で広がる小さな空間。
一連の仮設建築の機能を確定させます。



Structure 2 detail

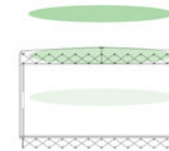
質素でも快適な環境を。



Environment / 環境

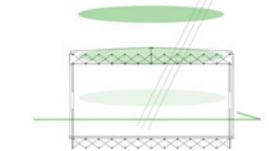
- temperature/気温

外気との間にアメントの二重構造を設けることで風速を調節する。二重構造内部の空気を自由に循環させる手段の展開ローバーは、空気を安易に締め、あるいは逃がす。その影響を受けて内部環境は、安定する。



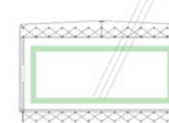
- summer/夏

ローバーを開閉し、二重構造で集まった空気を常に外気へ放出する。また、窓材の本材間に展開ローバーは、空気を安易に締め、あるいは逃がす。その影響を受けて内部環境は、安定する。



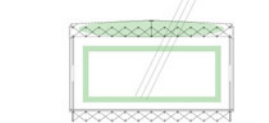
- light/採光

昼間は開閉し、夜間は閉じない。自然光によって調節する。窓材のシフトに左右されないことが、より仮設建築の可変性を増す。



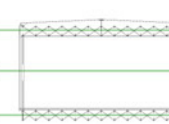
- winter/冬

ローバーを閉じて、二重構造の空気を暖め、内部の気温を上昇させる。



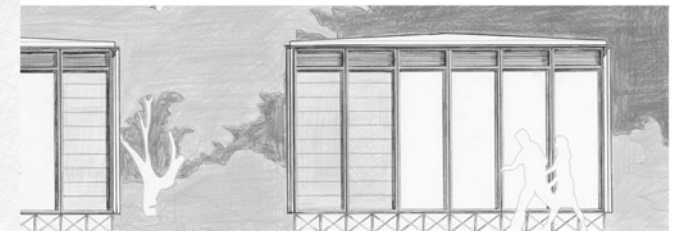
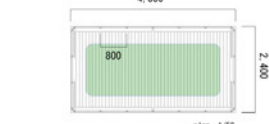
- humidity/湿度

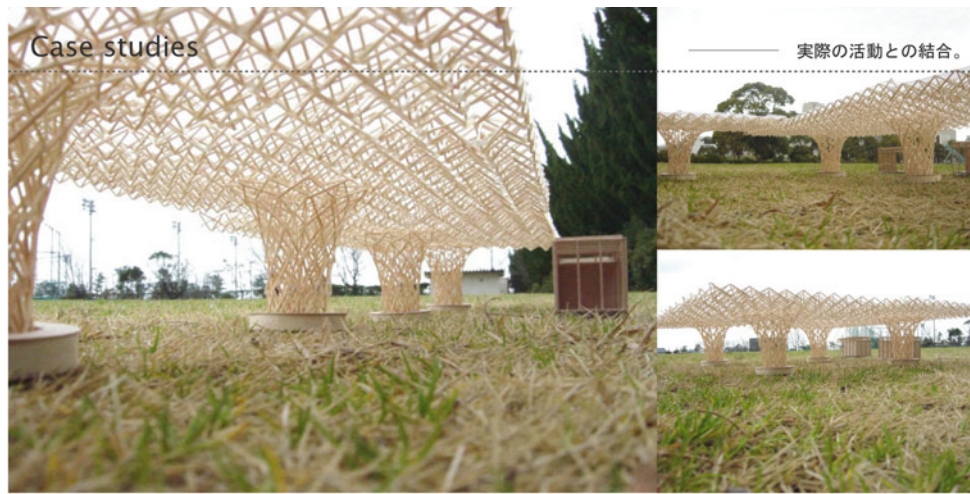
窓材の半数は、ヒジクハネされた木材によって構成されている。高湿度時には木材が湿度をチャージ蓄積し、乾燥時には放出して空気は循環する。床下、二重構造ともに通気して快適な環境を作り出す。



Surface / 自由な立面

異なる2種類の、合計18枚の窓材が自由な立面と内部空間を作り出す。2,800×4,800の小窓を有機的に使用することができる。



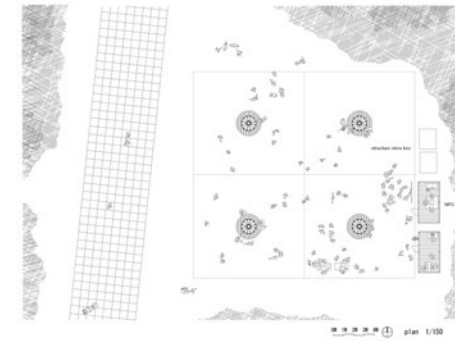


実際の活動との結合。

Case studies

実際の活動との結合。

Case 2 action : 中福祉申請行動
site : 若松公園
office : NPO・中区福祉事務所



Actions

ホームレス当事者の小屋や野宿者の分布と利用可能な公園の分布を照らし合わせると、若宮大通一帯が浮かびあがる。これらの分布は、常に変化するものではあるが、現在ではこの付近の公園に展開させることがベストである。

公園形状から仮設建築物の配置を決定する。この手順を踏んだ上で、現在NPOによって行われている活動をそれぞれあはめてケーススタディを行った。



Case 1 越冬大会
毎年2月から1月にかけて実施に行われている活動。福祉相談や健康相談などがともに行われる。かなりの数の当事者が集まり、福祉士の巡回で相談士と通す。福祉相談に対して社会的状況が実質的に当事者は生活が困難になる。この時期にこうした活動があることは、大変意義があることである。



Case 2 福祉申請行動
毎週行われる活動で、保護がすでない当事者とともに福祉事務所へ医療などの申請を行う。シャワーなども利用できることから、特に衛生面で当事者には欠かせない活動のひとつである。



Case 3 防災
活動は行われていないが当事者との会話の中で、「社会に貢献できること」の目的としてあがったもの。日々行われる屋外での話し合いなどが防災意識などの非営利で交流つづけていないだろうか？その考えをもとに、仮設建築物を用いてスタディを行った。



Case 1 action : 越冬大会
site : 千草公園
office : NPO・診療所 (若島診療所)



Case 3 action : 地震復興プログラム
site : 六反公園
office : NPO・storage

